

令和2年度第1回東庄町総合教育会議 会議録

日 時 令和3年2月26日(金)

午後1時30分から

会 場 東庄町役場 会議室2

(午後 1時30分 開会)

向後総務課長 ただいまから東庄町総合教育会議を開催いたします。

次第に沿って進めさせていただきます。最初に町長挨拶。町長、お願いします。

岩田町長 皆さんこんにちは。委員各位には、令和2年度第1回目の総合教育会議ということで、ご参集を賜りました。誠にありがとうございます。本日の総合教育会議の協議、また調整事項の一つであります教育の条件整備など、重点的に講ずべき施策につきまして、意見を交換するものであります。よろしくお願い申し上げます。

さて、東庄小学校が創立いたしまして約1年になるわけであります。コロナウイルスの影響で、昨年4月は休校で始まったわけでありますけれども、子供たちがのびのびとした学校生活を送れない状況が大変残念なことでありました。そのような状況下ではありましたが、小学校・中学校の修学旅行を実施させていただきました。学校関係者の皆様方の指導の下に実施することができたわけでありまして、ルールを守って団体行動を取ることを徹底させたわけでありますが、一人の感染者も出ませんでした。これは、子供たちにとっても自信につながったことだと私は思っております。

また、最近の明るい話題としては、こども園、小学校、そして中学校において、町内在住の方の寄附によりまして、3日間限定で町、そして県産の食材を使いまして、「日本一の給食」の提供が実施されました。子供たちの和やかでそして非常にうれしそう顔を拝見し、また、私も一緒に食事に参加をさせていただいたわけであります。今後も、子供たちの成長のために、そしてまた皆様方のお力を借りながら、全力で教育に尽くしてまいりたいと考えているところであります。

本日は、皆様方と町教育に関する課題を共有し、今後の方向づけということで有意義なご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

また、前回の会議の中で出てまいりました幾つかの課題を一つずつクリアしていくこ

とも含め、具体的な準備を検討していただいで進めてまいりたいと考えているところ  
でございます。

向後総務課長 ありがとうございます。

続きまして、教育長挨拶。教育長、お願いいたします。

五十嵐教育長 それでは、令和2年度の総合教育会議に先立ちまして、一言ご挨拶申し  
上げます。岩田町長には、様々な教育課題についてこのように教育委員と話し合う機  
会を設けていただきまして、誠にありがとうございます。先ほど町長の話にありまし  
たように、今年度4月より小学校5校が統合され、新しく東庄小学校がスタートいた  
しました。

しかし、新型コロナウイルスの影響で昨年度末計画していました五つの小学校の閉校  
式や、記念事業等は実施することができませんでした。新年度が始まってからは、小  
学校、中学校ともに4月に始業式や入学式を行うことができないという状況ござい  
ました。6月になって子供たちがやっと学校に登校するようになってきて始まったわ  
けではありますが、学校が始まってからの生活も、分散登校、あるいはマスクの徹底、  
密集、密接を避けての教育活動など、手探り状態の中で教育活動を行っていき、少し  
ずつ正常に近い状態に戻っていったと、そのような状況でございました。

しかし、完全に元の状態に戻ったというわけではございません。このようなコロナ禍  
の中でも運動会や修学旅行等を含めて、子供たちの教育活動を進めてこられたのも、  
町長をはじめ多くの町民の皆様方のご協力の賜物であると、このように感謝しており  
ます。

今回の総合教育会議では、統合された小学校、中学校の教育環境についてや、コロナ  
禍の中で一段と進んだICT教育の環境など、本町の子供たちの教育環境が大きく変  
わってくるところで、町長を交えまして本町の学校教育について意見交換をしていく  
ことは大変意義のあることと思っております。委員の皆さんからご意見をいただき、  
今後の方向性を見出していきたいと、このように考えておりますので、どうぞよろし  
くお願いいたします。

向後総務課長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。議事進行は町長にお願いいたします。

岩田町長 それでは、しばらく議長を務めさせていただきたいと思えます。議題の一つ  
であります、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換を議題と

いたします。事務局より説明をお願いいたします。

堀江課長補佐 総合教育会議の協議・調整事項の一つでございます教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について、意見交換をお願いするものでございます。特に今回の会議では、小学校統合後の課題や、これからの東庄町の教育についての意見交換をお願いいたします。

岩田町長 それでは、私から少し意見を述べてみたいと思います。

新型コロナウイルスが世界で感染したこの例は、私の記憶ではこの六、七十年間、戦後は本当になかったなと思っております。インフルエンザが蔓延したときもありますけれども、世界中がこういう一つの病にかかり、また対応・対策を練ってお互いに協力しながらこれを防いでいこうという、こういう大掛かりなものは、私は初めて経験するわけでありまして。まさに五つの小学校が閉校し、また開校するというスタートの矢先でありましたので、これは大変なことになったなという思いがありました。

これからの東庄町の教育ということでありましてけれども、私の理想は、小学校の多くの子供たちが一緒に教育を受ける。皆さんが同じ条件の下で教育を受ける、それが一番だろうと思っておりましたので、統合ということで、五つの学校を一つにしましてスタートさせよう、その矢先でありましたので非常に残念な思いがいたします。

なぜそのようなことを考えていたかといいますと、子供たちが音楽会とかやります。しかし人数の多いところは楽器をたくさん持って演奏もできるし合奏ができるわけでありましてけれども、人数が揃わなければ歌を歌うしか方法はないということでありまして。音楽会一つにしても、格差をつくってしまう。こういうことではいけないだろうということで、同じ条件下で町の子供たちはのびのびと教育を受けることが大事だろうと思っています。

今、世界へ足がかりをつくって、そしてまた世界に羽ばたいていくということは、やはり幼児教育から小学校、中学校の義務教育の一番そういう時期なんだろうと私は思っています。ですから、そういう時期を失わないように、また遊びも含めて目いっぱい元気に過ごせる、そういう教育を子供たちに受けさせてあげたいということでありまして。

ですから、この町で育った子供たちが、やがて世界の中で活躍ができたり、そしてまた地域に恩返しということであれば、いろんな意味で話題性を持たせてくれる、そういうことがやはり我々の責務でもあるし、これから子供たちの将来に向けての起爆に

なればという思いでございました。

しかし、初年度であります今年是非常に残念だったなという思いがあります。まだまだ始まったばかりでありますので、今後子供たちの教育の面に関しましても、委員さん方の意見を聞きながら、子供たちがのびのびと学校生活を送れるよう、支援してまいりたいと考えているところであります。皆様方のご意見をいただければ、非常にありがたいなと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

五十嵐教育長 それでは、私から学校教育について、私の考えているところを少し述べさせていただきます。

学校教育では、子供たちに様々な方法を講じて、知育、徳育、体育、この三つのバランスの取れた教育を目指すこと、これが教育の目指すところだとよく言われております。その中でも豊かな人間性、あるいは正義感や公正さを重んじる心、他人を思いやる心など、子供たちがしっかりとこの学校教育の中で身につけて大きく育っていく学校をつくっていききたいと、このように考えております。

先日、小学校、中学校に委員の皆さんを含め見に行ったわけでございますけれども、私は平成24年に、神代小学校の校長をやらせていただきました。神代小学校は1学級が10名から15名くらいの小さな学校でした。1年生から6年生まで、一緒になって一つの活動を行ったり、上級生は1年生の面倒をよく見て、学校生活を送ってきました。1年生から6年生まで仲良くやっている、すごくいいなという部分もありましたが、6年生は本当に6年生なりの成長ができているのだろうかというような思いもございました。やはり、子供たちが成長していくためには、上の子供は下の子供の面倒を見るとともに、同じ学年の子供たちの中で切磋琢磨しなければならない。それには人数が少な過ぎると思っておりました。

今は東庄小学校が一つのクラス、30人くらいのクラスになっております、それが三つもあります。その中で活動しているその姿を見て、同じ学年の子供たちと切磋琢磨しているなど、ぶつかり合っているなというような思いを持ちながら見させていただきました。昨年の総合教育会議の中でも、東庄町の教育について私の思いを述べさせていただきました。そこではこども園、小学校、中学校と一つずつの学校になったということで、こども園から中学校まで太い教育の連携を図って教育をしていけるという話をしたかと思えます。太い連携を図った上で、心も体も強い子供をつくりたい。そのためには、同じ学年の子供たちがまずそこで切磋琢磨する。そして下の学年の子

供たちは上の学年の先輩たちの行動を見て様々なことを学んでいく。そういう教育を目指していきたいと思うところであります。教科の指導、学級経営、学校経営、子供たちが学校生活をしていく中で様々な場面でそれを身につけさせる、身につけることのできる環境をつくっていきたいと思います。

ただ、非常に残念なのが、今年1年間コロナ禍の中で、今言った目的を目指していくというよりは、とにかく学校運営をするということを最善、一番に考えてこれまでやってまいりました。コロナが少しでも落ち着いてきたら、幼稚園、小学校、中学校の先生方、研修、同じ目的をもって研修をする。子供たちの様子について情報交換をする。そういうことを通して心身ともに強い子供にしていきたい、してってもらいたいと、こう思うわけです。

もう一つ、子供たちの中には、小学校から中学校に上がるときに、なかなか適応できない子供も出てくる可能性もあります。そのときに中学校の先生がどのように手を差し伸べたらいいのか。あるいは小学校の先生がこの子供はちょっと心配だということであれば、それをきちんと伝えて中学校で手を差し伸べる。そんな連携、それを図りながら様々な経験をさせ、心身共に強い子供をつくっていきたいと、つくってもらいたいと、このように考えております。

もう一つ、コロナ禍の中で最も進んだものがICT教育です。タブレットはまだ一人1台を使っただけの教育は完全にはできておりませんが、来年4月早々からそのような教育ができるだろうと。また電子黒板も入りました。そういう電子機器等を使って新しい授業を行っていく。そうすることで子供たちの思考する、考える、そんな授業を目指してもらいたいなと思います。

今までの授業はとにかく覚えなさいというような授業でしたが、これからの授業は自ら考えて、どういうことをすればその課題が解決できるかということをも身につけさせる授業をぜひやってもらいたいと思っています。知の部分と徳の部分、体の部分ということで、知・徳・体についてそんな教育をできるようにしていきたいなと思っています。

岩田町長 ありがとうございます。それでは委員の皆様方からご意見を伺いたと思います。小林委員。

小林委員 小林です。本日はお忙しい中、総合教育会議を開いていただきまして、本当にありがとうございます。

まず最初に御礼を申し上げたいと思います。今年は5校の小学校を統合して、4月から新たな東庄小学校がスタートして約1年を迎えることとなります。しかし、コロナ感染症の影響で、学校生活にも大きな制約がかかる一年間ということでありました。その中で、小中学校ともに運動会、学校行事、修学旅行など、万全の対策を取りながら実施できたことは子供たちの自信になることと思っております。この一年間をまた振り返ってみますと、この東庄町の中で、学校教育が大きく変わったのではないかと考えております。まずその一つは、新たな東庄小学校がスタートした。

それに伴ってのスクールバスの運用開始。新給食センターの8月からの運用開始。それから放課後児童クラブ、これも東庄小の敷地内にできて始まりました。それから電子黒板の導入、タブレット端末の導入、ICTの整備。それから、北校舎の増築と改築。それから給食センターの開始に伴っての中学校駐輪場の整備、運動場の整備など、数えきれないほど、とにかくこれだけの経費を町が承認していただけたということは、今までかつてないことじゃないかなと。

これだけやっていただいたことは、町の財政としては非常に厳しいかもしれませんがけれども、子供たちのためにも非常にありがたいことだと。今さらながら本当に感謝している状態であります。

先日学校の新しい電子黒板、タブレット等の状況を視察させていただきました。私が小さい子供だったら、ぜひあやかりたいなと思うほど、本当に関心いたしました。電子黒板が75インチの大型画面液晶ですから遠くから見ても見やすいという感じがしました。黒板に字を書いて授業をやっているという状況ではなく、この動く画面で指導されるということは、目が輝いているというような感じを受けました。その中でこれからの課題としては、それを上手に活用していくというのが、教師のそういう指導、そういう面が、非常に大事ではないかと。

特に電子黒板は先生がある程度指導になりますけれども、タブレットの場合は、進んでいる子供と電子機器に慣れない子供に格差が生じないような指導がこれから要求されるかなと私は感じております。ですから最初に慣れさせるまでに、やはり支援員とか、そういう配置を考えていただかないと、宝の持ち腐れになってはまずいかなとそういう感じがしております。

岩田町長 ありがとうございます。ほかにございませんか。向後委員。

向後委員 本日、総合教育会議の開催をいただきありがとうございます。4月からスタ

ートした東庄小学校ですが、コロナ禍の中で入学式もできないということになりました。それでも何とかスタートしてきたわけでございます。全国的には運動会や修学旅行など、全て中止になっている学校が大半の中で、我が町では小学校、中学校ともにできたということは、町当局のご理解、教育委員会事務局、そして先生方のご努力の中で大成功の修学旅行ができたんじゃないかと思えます。子供たちの父兄も喜んでおりましたし、感謝しておりました。

小学校では一年間を通していろいろと計画され、やろうとしたものが、まだまだできていない問題があります。4月からが一年を通しての東庄小学校のスタートになるんじゃないかと思っております。まだまだ4月以降、コロナがどうなるかも心配ですけど、ぜひスタートからできるようにお願いしたいと思えます。

またそして今ICT教育の中でもGIGAスクール構想の中でも、タブレットや電子黒板、いろいろなものは全国にも先んじて本当に先頭を切っているこの町の状況だという話も聞いております。こういうハード面はそろってきて、あとソフト面ということで、また3月からはICT支援員を動員していただけるということで、本当の中身が入ったGIGAスクール構想になっていくんじゃないかと思っております。そうすれば、デジタル教科書が入ったときにも遅れが生じないのではないかと思っておりますので、指導員の拡充をお願いして、GIGAスクール構想に進んでいってほしいなと思っております。私からは以上です。

岩田町長 ありがとうございます。それでは引き続いて林委員、どうぞ。

林委員 林です。よろしく申し上げます。まず、先ほど来話が出ておりますように、統合前からこの統合に当たりましては、町長をはじめ、皆様方に重点的に教育課題について解決していただきまして、改めましてこの場を借りまして感謝申し上げます。本当にありがとうございます。そういった中で、教育委員として具体的な要望と申しますか、今後の施策について相談をさせていただければと思えます。

まず一つ、課題として挙げさせていただきたいのが、こども園に関してになります。先ほど教育長からのお話がありましたように、小学校から中学校に上がるときに適応障害が出るのではないかと、そういったような懸念があるというお話がありました。

実際問題といたしまして、その後は小学校、中学校、中学校からの高校、高校から大学へというところでの各段階において、実態として適応障害に見られるような子供たちが増えているのは実情だと思います。私の職場としても、そのような子供たちが見

受けられるというような実情であります。

そこでこども園についてなんですが、やはり幼児期に例えば学校の集団生活になじめないであるとか、そういったような問題点を解決してあげることが、その後の小学校あるいは中学校、高校、大学と、その子供たちの将来の就学に向けて、大きな要素を占めるのではないかと感じております。そういった面で、今、こども園は、多くの保護者の方のご理解をいただいて、多数の幼児が入っていただくような形になりましたけれども、同時に様々な養育環境の中で問題を抱えているお子さんもいるのかなと、こういう状況であります。

そういった中で、その子供たちをいかに育てていくのかという視点で、例えばそういった子供たちを少し休憩させたり、対応できるような場所、人員、こういったものが今後必要なのではないかなというところで、ご提言申し上げるところでございます。

それともう一つ、今ICT教育に関して様々な形で各委員からお話がありましたが、こども園に関しては今のところまだ計画がされておりません。実はそのICTに関して私も視察をさせていただいたときに、今までのコンピューター教育という概念とはかなり変わって、視覚・聴覚、子供たちが楽しく学べるということに対しても、かなり具体的に効果が挙げられるのではないかなというようなことを感じております。こども園、幼児に対しても視覚・聴覚により訴えやすいものは、ある意味ICT教育かなというふうに感じました。同時にこども園に対してもそういった環境整備をしていただけると、有効活用がさらに図られるのではないかなと感じております。そういった施策も含めてですが、ご検討いただくと大変ありがたいなというところでございます。以上です。

岩田町長 ありがとうございます。それでは岩井委員、どうぞ。

岩井委員 岩井です。よろしく願いいたします。

まず、ICT教育ですが、町のGIGAスクール構想は全国的に見てもかなり進んでいると思います。それは町長、教育長、それに議員の皆さん、そして町民の方々、そして役場の職員の理解と協力があつたおかげで、進んでいたと思います。本当にありがとうございました。

電子黒板なども、昔のものと違い、とても使いやすいということで先生たちの評判もかなりいいです。重要なことは、ICT教育を使って学業を効率よく進めて、まずここを努力して先生の余暇時間を増やして、魅力的な先生をつくり、そして生徒たちも

時間をつくってスポーツや読書やいろいろな自分の時間をつくって進めていくのが一番重要だと思います。余暇時間はパソコンから離れて充実した時間をつくってもらるように、ICT教育は必要ですけどそればかりいかないで、別のこともとても重要だと思います。

それで、ICTが得意な子供が出たら、それは学校とは別にパソコン教室などを開いて、公民館などで開いてもらって教育するという考え方もあると思います。以上です。岩田町長 いろいろなご意見を伺いました。これからの教育ということでの、また現場でのお話といろいろしました。これに関しては教育委員会のご支援があっただろうと思います。

子供たちが今勉強している中で、またICT教育の基本であります操作とかは、子供たちは自然に覚えてしまう、大人よりはるかにそういう能力があるんですね。それになじむことからスタートさせることがまず大事だろうという気がありました。この間も現場を見せていただいたんですけど、子供たちは必死に見て勉強していましたけれども、やはり興味を持たせていくということも教育の一つかなと。我々の年代になってきますと、難しそうだと最初から構えてしまうんですけども、子供たちはそういうことではなく我々の年代と違いました。

これからは本当の意味での中身づくりです。これはもう世界共通のものでありますから、操作したり覚えたりすることによって、自分の今度は希望の職種も変わってくるんだろうと思います。ですから、今、小学校でも中学校でもやっておりますけれども、それを教える先生方も勉強になりますので、今まではあまり操作したことのない先生方もこれはもう遅れを取っちゃいけない、そういう気持ちになるのではないかな、そんな気もいたしました。

五十嵐教育長 今、皆さんからICT教育、GIGAスクールの話がありました。一時期、どの学校にもLL教室というのがあってやっていたと思うんです。それがいつの間にか廃れてしまった。そして、1ギガくらいのノートパソコンがで始めたときに、文科省がコンピューター教育をどの教科にやらせようかというところで、数学と技術ですね、この2教科で何とかやらせられないかというような話が来たときがあるんです。そのとき私数学の教師でしたが、コンピューター教育といっても、ノートパソコンがやっと出て1ギガくらいで、インターネットもつながらない状況で、何のためのコンピューター教育かと。コンピューターの操作を教えるための教育だったら、学校

じゃなくていい。学校は思考させるところなんだと。頭を使わせて学ばせるところなんだ。コンピューターの技術を教えるところはコンピューターの教習所のような所を作れば、必要な人はそこで学べるだろうというふうに思っていたわけです。

ところが町長からGIGAスクールの話来たときに、ちょっとLL教室や昔のそのことを思い出して、心配になったんですが、今子供たちにコンピューターを一人に対して1台渡している。そうすると、そのコンピューターを子供たちは本当に自由自在に使えるんです。家には子供も恐らく自由に使えるんじゃないのかなと。そうなってくると、コンピューターの使い方を教えるんじゃなくて、その先のコンピューターを使ってどんなことを学ぶ、どんな頭を使わせようか、そういうような学習ができるようになると思うわけです。

ですから、今回町長からGIGAスクールのお話をいただいて、子供たちに与えて、これから先そういう面でも学習というのはすごく広がるな、先生方によっては本当によく、深く学ばせることができるんだというふうに思っているところです。

また、今回のタブレットにデジタル教科書というのを組み込めば、英語の時間であればネイティブな英語の発音を、それで一人一人学べるわけです。そうなってくると、すばらしいなと思います。

ですから、今はどうやって子供たちに頭を使わせる授業ができるか。そちらに頭を切り替えて早速やっている先生いましたよね。授業を見たら子供たちも集中して一つのことに對して一生懸命考えている。今度はそれをもっともっと深めて、学ばせる、思考させる、そんな授業を目指していきたいなと思います。

ですから、いち早くできたのはよかったなと思っています。

また、先ほど林委員から、こども園でのICT教育ということで話がありました。これもこれから研究して行って、こども園でのICTを使った目的というのと、積み木を使うような感じで操作させるという感じなのかなと思います。その中で、やっぱり幼稚園で最も身につけなければならないのは、集団行動という部分ではないのかなと。ですからそれとの関係性、絡みを考えながら、どういう形でやっていったらいいか、また研究の段階だと思うんですけども、是非、そちらの方を考えていければなと思います。またご意見いただければと思います。ありがとうございます。

岩田町長 いろいろな場面でこういう話をするんですけども、工業団地に東洋合成という会社があります。そこに東庄町から全世界へと書いてある看板があるんです。

会社が子供たちを世界での仕事で飛び立たせたいということで、東洋合成の亡くなった会長が、これから国際的に活躍する社会ですから、そういう子供たちに教育のためならポケットマネーで支援をしたいという申出があったんです。

そういう人たちの中にホンジュラスという国の、学校途中でいわゆる休学してこういう仕事をしたいという子がいました。ホンジュラスに難病があって、解明とかそういうものに徹底したものはないと。それでまたそこで未知の世界のことも含めている学んできたと思います。復学して、今度会社を選ぶときに、実は東洋合成に入ったんです。やっぱり経験と語学と、そういうものの知識とかというものが全部できると、職種は世界中に広がるんですね。非常に親御さんに理解があって、そういうチャンスに恵まれたんですけれども。私はそのときすばらしいなと思いました。

それから意外と知られていないんですけど、この町から、海外に青年協力隊のメンバーで出た子供たちもいます。ニュースにはあまりならないんですけども、やはり世界の舞台で仕事をしてみたいという人はいますし、学校を休学してもそういうところで仕事をしたいという人ももちろんいます。そういう子供たちが町で育ったことに対して、そういうような気持ちになったということは、我々がいろんな側面から子供たちがいろんな舞台の中で育ってもらいたいなということの取っかかりをつくってあげることができたんだろうと、このように思っています。

これはやはり子供たちの夢を膨らませてあげるといふ部分に関して、これからはGIGAスクールの関係も含めて、もっともっと我々の世代では気がつかなかったようなことが、子供たちに舞台は、大きなところ、全世界ということで考えれば、本当に好きなことをきちんと全うできることも仕事のうちだろうというように思えてきたわけです。子供たちの選択の中で何か指導のためにやりたいとか、力になりたいとかという気持ちが出てきて、発展途上国に行って何か自分のできる限りで応援してあげたいという気持ちで青年海外協力隊に行ったりなんかしているんですけども。

そういうことも含めて、これからやはり意欲的に、勉強って実際には頭の中で覚えていることのほうが非常に強いんだろうと思います。ですからそういうものをやろうという、遅れを取ってしまう。世界の中に取り残されるくらい日本は遅れをとってしまう。それを一気にやろうというときに、これはチャンスだと逆に考えた。ですからそのうちやればいいということではなく、今やらなければ、もう5年、1年、2年遅れただけでも相当違ってくるということで考えました。

これから実際にどうやって運用いくか、それをどうこなしていくかが子供たちにもいろんな手助けになるんですけれども、やはりこれにも指導者がいるか、専門的な知識の方も必要だと思います。雇用の中で今年の4月から指導的な立場に人たち、専門の立場でフリーで探してあげたいなと、そのように思っているところでもあります。小林委員。

小林委員 それじゃあ、今GIGAスクール構想とか、その件で話を、要望を出したんですけれども、よろしいでしょうか。

まずスクールバスの運用ですけれども、現在特に問題なく運用できているようですが、バス9台を回してしまして、もし仮に災害が発生したとか、事故が発生した、そういう場合の対応方針というのを、ある程度事前に設定しておくというのは必要じゃないかなと思います。教育委員会だけでなく全体の問題がかかってくるので、そういう問題を事前に検討していただいたほうがいいのかなと。

それから、中学校の通学路ですけれども、桁沼の真ん中から通っている道路が今度は11から12メートル道路の通学路として活用する。中学校でいろいろ生徒指導の席で並列自転車で危ないとか同じような質問が出るんですけれども、作業は進んでいるんですけれども、早めに方向が決まれば提案というか方向を示していただいて、やっていただければ。自転車で上がっていくのが、笹川が人数多いんですけれどね。そういう面でもぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

いろいろあって申し訳ないんですけれども、放課後児童クラブとか放課後児童教室ですか、これは私も勉強不足かもしれないんですけれども、放課後児童クラブは小学校に立派な建物でやっておりますけれども、私としては、この名前が似ておまして、どっちか分からないじゃないかという感じがするんですよ。この間の広報にも一面で出ておりましたよね。私もそれを見て、分かりづらいなと感じました。

それから、35人学級を文科省が発表しましたがけれども、また施設を造ったりで心配したんですけれども。東庄の場合は小学校も教室を増やさなくて済むという話で。これは対応できているということで、私も一安心したんですけれども。

あと、トイレの改造ですか、これも課長からも、今年度の予算で申請して、小学校のトイレ全部和式から洋式に変えるということもやっていただけるということですので、これも非常にありがたいことなのかなと。

あとは特に今度小学校、中学校とも感染症の関係ですけれども、東庄は小・中とも

クラスターも発生しませんでしたし、町全体でも最初に施設でクラスターが発生して、これはどうなるのかなと思いましたが、その後ほとんど人数増えなくて、町民も相当気を使っているのかなと。町もそれだけの対策はしているのかなと思って感心しているんですけども。小・中ともこれは学校でそういう指導と、今回も手洗い場の整備だとか、そういうものもやってくれるということですので、安心しました。そういう面で町としてもそれだけ支援してくれるということはあるありがたいことで感謝しております。以上です。

岩田町長 何点かありましたけど。実はトイレの件で申し上げたいと思います。もう随分前になりますが、改修しようとしたときがあったんですが、和式は残してくれということですね。ところが各家庭でも大体和式から洋式に変わってしまった。ですからもう時代とともに変わったんだろうということで、逆に使われないトイレになってしまう。それから洋式のほうばかり混んでしまうということでもありますので、これは速やかに直したいと思います。ほかに何か。

五十嵐教育長 先ほど35人学級ということで話がありましたけれども、来年度1年生から3年生までが35人学級になろうかと思えます。今の3年生が4年生になったら、そこは35人学級じゃないんですね、該当しないということで、4年になるときに2学級になってしまうんですね、今3学級なんですけど、子供の数が35、70いかないもので2学級になっちゃう。ですから来年度小学校は1学級減という形で今進んでいます。将来的には35人学級になると3学級で進む。大部分は3学級で進むんですが、少ないところは2学級になるところも出てくる可能性がある。

今回学級編制ができるように、単学級にならないようにということで考えていましたので、35人学級になったということで、より単学級になることはなくなる。おそらくずっとこのまま、これから生まれる子供の人数によってまた変わってくる可能性がありますけれども、しばらくの間は単学級にならない、少なくとも2つ以上の学級での学年となり、その中で教育ができると思えます。理想的な学級の数というのは、2学級ぐらいといわれています。何年か後にはそれに近づくということになります。

あと放課後児童クラブと放課後子ども教室のことですけれども、名称が非常に紛らわしいので、国・県のほうでそういうような表現を使っていますので、またその辺を研究して、分かりやすくできるようにしたら考えていきたい。放課後児童クラブのほうは福祉の関係ですので、またその辺考えたいと思います。

向後総務課長 事務局ですが、中学校の通学路の関係は、区長会からの要望ということでありまして、鋭意事業が進められているところでございます。私の知る限りでは、今用地買収が進んでいまして、比較的問題なく進んでいると聞いております。それから感染症の関係で、コロナの感染者が増えないというのはこれはまさに町民の皆様のご協力によるものだと、これはもう常々言っているところでありますけれども、やはりクラスターが大きなショックとなって、皆さん気をつけておられるのかと、このように感じております。

また、小学校と公民館の十字路、道路の今改修工事をやっております。信号機の設置要望がありまして、これについては旧神代小学校の前の丁字路にあった信号を撤去いたしました。それを移設するというので、できるだけこれを年度内に工事が完成するような方向で今進められているところでございます。

なお、いろいろご要望いただいております件は、当初予算に反映させて、3月の定例議会で予算案として上程をする予定になっております。私からは以上でございます。

岩田町長 ほかに何かご意見等ありましたら。向後委員、どうぞ。

向後委員 長期的な見方なんですけど、以前町長とも話をしましたけど、今、プールが中学校は完全に撤去したと。小学校も今いろいろ改修して、何とか使えるようになっていますと。ただやっぱり小学校のプール、かなり老朽化しております。

もう一つは中学校もあと10年、15年では耐用年数となります。建て替えなきゃいけないというときに、小学校と中学校のあり方、建て替えの時期を見て、それを今後どうしていくか、ここ1、2年でどうこうする問題ではありませんけど、そういうことも視野に入れた、長期的な構想というものも教育委員会のほうも考えなきゃいけませんし、町部局とよく相談しながら、どういうことがベストなのかというのをこれから時間をかけて検討していく必要があるんじゃないかと、そういうふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

五十嵐教育長 今、東庄小学校、東庄中学校それぞれ離れたところでやっております。小中一貫という話も出ておりましたが、小中一貫となると免許制度が今のままだと大変厳しい、小さな町だと小中の免許を持った先生を集めることはほぼ不可能。私、成田にいたときの話なんですけど、小中合わせて40校くらいありましたので、小中の免許を持っている先生を集めて、5、6年生と中1、中2くらいまでの教科担任制にすることができると。そうすると一貫校もスムーズに学級担任制から5年生から教科担

任制という形にすることができる。

ただ、これから小中一貫がもっと国全体で広がっていけば、今度は免許制度が変わって、小学校の免許と中学校の免許両方持っている先生をもっとつくっていくと思うんですね。そうした段階で初めて本町のような一つの町に一つの小学校、一つの中学校しかないところが、小中一貫でやろうといったときに、両方の免許を持った先生がたくさんいるわけですから。今のままだと一貫という名前だけで、一貫にならないというのがまず一つ。集めるよりは、かえって離れたところであって小学生が中学校に行く、もうそれで意識が違うわけですから。そこの段階で1ランク上がったと、中学校に俺たち上がるんだという意識が。ただそういうものもなく一つの学校だと、全くそういうのがなく、なだらかな9年間になっちゃう。それでは子供たちの成長も十分ではないと思っておりましたので、今のような形でやらせていただきました。この後20年位して校舎が老朽化してきて、免許制度が変わってなおかつ小中一貫の有効性ももっと出てきた段階で本町のような小さな町であれば、そこでしっかりした一貫教育ができるようなものをつくると。そのときには子供の数だって今よりももっと少なくなるという予想がつくわけですね。それに見合った教育環境をしっかりとつくることのできるのではないのかな。そうしたら東庄の子供たちはそこでしっかり学んで社会に羽ばたいていくというふうに思うわけでありませう。

私の頭の片隅には、20年後東庄の教育はどんなふうにしていったらいいかなというのを思いながら、とにかく今は一つの小学校になったわけですから、ここと中学校が大きな太い連携を図った教育をできれば、こども園から中学卒業まで10年間の連携した教育ということを考えている。以上です。

岩田町長 実は、青森県に東通村という村があるんですが、この村は10年制なんです。雪が深いものですから、距離もあるし通学するのも大変。それをやっぱりやるにはその地域だけしかない条件がある。子供たちが雪の中で車でも動かない日は休みになってしまうと。雪が深くて雪が続けば休みになっちゃう。それでは9年間の勉強の期間では足りないんだということで、10カ年のようにしてもらったということで、話を聞いたことがあります。

町もさっき出生率の問題があります。今35人で3クラスというような話をしておりましたが、今から7年後、今年の出生率でいくと、全体で30人ちょっと、40人欠けちゃうんじゃないかというくらいの出生率の届出しかなかったと。

ですから大変な状況下に置かれることは事実なんだよね。毎年金婚式と米寿をやるんですが、米寿の88歳になる人が130人くらいいて、それから一年生の人数を見たら80人いるかいないかというくらい。

生涯の中で結婚する人というのが非常に少ないし、若い人はいるんですけど結婚しないというのが非常に多いと思う。何でそういう現象が起きているのかよく分かりませんが、世話する人が少なくなったのか、本人が見つけられないのかはよく分かりませんが、とにかく独身者はいるんですよね。自分の生活は自分でちゃんと守れるというような感じのものが強いんじゃないだろうかと。私にしてみれば不思議だなとは思いますが、周りを見渡しても非常に多いと思います。

ほかにございませつか。

小林委員 また町の感謝することになっちゃうんですけども、給食センターをどこにつくるのか、いろいろやったんですよね。私も、あそこに来るとやっぱり駐車場を片したり、金かかるんですよね。でも今考えても、やっぱり中学校の所で正解だったのかなと。今でもそう思っています。

林委員 時間もあまりないと思いますので、まとめて概要だけ。一つは生涯学習についてなんですけれども、現在文化財担当の方が不在ということで、こういうのも年数が経ってしまうと記録が薄れてしまうといいますが、しづらくなってしまうところもあるかと思しますので、常勤じゃなくても構わないと思うので、適切な方がいらっしゃれば、東庄町非常に歴史が古いところでもありますので、そういったことも保全できるような方がいらっしゃればなということがまず一つです。

それからもう一つは、先ほども少し話に挙がりました、放課後子ども教室に関してなんですが、今現在は文化的な活動がメインになっています。これを将来的には例えば学習面であるとか、運動面であるとか学校教育に直接密接に関わる場所でも何か提供できる方法はないかなと。特に近年学力格差というのが大きい面があったり、あるいは運動面に関して、文科省のほうは学校教育から部活動みたいなものを切り離そうというような方向性も見受けられます。

そうなってくると放課後子ども教室が運動面でも活用できればいいスタートといいですか、助走みたいな形で適用できるのかなということも含めてですね。ただ、そうなってくると人員の問題が出てくるので、教育委員会だけではなくて、町全体でいろいろな策を考えていただけるとありがたいなというところです。

最後にもう一つだけ。今お話ししたような形でいろんな東庄町としてすばらしい教育を実施していただいたり、様々な設備をご用意いただいているんですが、外部に発信するというのがなかなか苦手といいますか、そこがちょっと難しい課題だなと。先日NHKに給食取り上げていただきました。ぜひほかの教育面に関しても取り上げていただいたり、先進的な活動をPRできる場所、なかなかこれを先生方やってくださいといっても難しいと思いますので、そういった部署ですとか。

先ほど町長、青年海外協力隊の話をされておりましたけれども、私も実は一か月くらいタンザニアに行ったことがあるんですが、そういうことをバーチャルで体験できるというのがICTでもあると思うんですね。そういった教育もできますよ、そういうガイド発信をできる、そこができればさらに教育効果が上がってくる。教育効果の面で言えば、そういうものを発信していくと、先生も自信がつくし、生徒児童たちも自信がつくと思います。やっぱり東庄町の教育すばらしいな、我が町ふるさとの誇りになるんだとPRできると思いますので、ぜひそういった外部発信も、検討課題として発言させていただきました。以上です。

岩田町長 ほかにございませんか。

岩井委員 先ほど町長は世界に羽ばたく人材が欲しいということをおっしゃったので言わせてもらいますが、世界に羽ばたくには英語教育が必要だと思います。それには入試のための英語はもちろんですけれども、世界に行くとしたら聞くも話すも発音がとても重要なので、ネイティブの先生やネイティブに近い日本人の先生の補充が重要だと思います。

世界で働くとしたら自分に自信がない人は世界で通用しない。自分の生まれた土地に自信があってとても好きで、もっと自分を高めたくて海外に行くという人がやっぱり通用する。海外の人も、日本人が話すことが、誰々さんがこう言っていました、だからそうですと言うと、全く話は聞いてもらえないんです。おまえがどういうふうに考えているのか。目と目を合わせて話すことがとても重要で、そのためにはやっぱり自分が知らなくても自分の意見を言うことが、これからの教育でも話し合っていくことがとても重要なことだと思いますので、その辺をしっかりと考えながら。また、日本人というのは英語はしゃべれたほうがいいんですけども、英語というのはただのツールで、しかも25個くらいしかアルファベットがないのを世界中の人が使っているんですけど、日本人は片仮名があり平仮名があり英語があり、それをほとんどの国民が

しゃべれるという、世界中では日本人しかいなくて、人として一番すぐれているのは本当に日本人なんですよ。英語がしゃべれないというのはもちろんそれなりにしゃべれる言葉を勉強しているということは、なかなか英語に力を入れるって難しいんですけども、自信というものは持っていていいと思うんですよ。そのためにはやっぱりしゃべれる人に来てもらって、本当に日本人のネイティブの英語の指導員が重要だと思います。

あと一つなんですけれども、この前新聞に載せられたんですけれども、本の紹介をするPOPコンテストがあったと思うんですけれども、読書の大切さや楽しさをこの町の文化にしてほしいです。これからICTも重要なんですけれども、本というのも重要だと思うんです。先日の新聞にもタブレットで見る授業じゃなくて、紙ベースで見たほうが記憶力が増すというか、紙の何枚目に何が書いてあるかということが分かると記憶力が増す、スウェーデンの研究家がちょっと言っていたんですけれども。だから全て電子教科書にしちゃって大失敗する可能性もあるから、少し気をつけたほうがいいですよということが書いてありました。

この町の子供たちは車で移動する時間がとても多いので、たっぷり読書する時間はあると思うんです。いろいろなところに連れていってもらったりするときに、学校で先生たちとコミュニケーションをICT機器一人一台ずつあるので、たっぷり時間をとってもらえるんですけれども、自分の時間は読書をする習慣をつけてもらおうと、これから自分に自信がつくと思いますし、それに子供が変われば大人も変わり、大人が変われば町も変わってくるというか、そして自信がつけば発信力もかなり高まってくると思いますので、そういうことでよろしくお願いします。

岩田町長 ほかにございませんか。

五十嵐教育長 今、英語教育、まず外部への発信ということでお話がありましたけれども、できるだけ教育委員会として外部に発信できるように、また今回のようにマスコミにいろいろな活動について投げかけるということをやっていきなと思います。

生涯学習でやっているポップコンテストですか、あれとか、千羽鶴とかはマスコミさんが来てくれて掲載されましたけれども、もっともっと子供たちの活動をいろんな面で知らせていくという形を取りたいなと思います。

あと、自分に自信がなければいろんなことはできないというお話がございましたけれども、本当に自信を持たせる、そのためには精神的な面も強くなる、心が強くなる、

体も強くなるというところからまずスタートするのかなという意味から、教育をしていければなど。そして自信を持って世の中で生きられるような子供にさせたいなと思います。

それと、英語の話が今日出ましたけれども、日本語もしっかりと学べるようなことを小学校、中学校を通じてそういう機会を持っていけたらなというふうに思っています。やはり英語も大切かもしれないですが、日本人ですので、正しい日本語を話せるというのも大切と思っています。英語も今まで以上に学習の仕方とかも研修して学べるようにしたいなと思いますが、それもやりながら日本語もしっかり正しい日本語が話せる子供をつかっていけたらなと思います。

岩田町長 それでは、私のほうから一言述べさせていただきたいと思います。有意義なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。いろいろなご意見を拝聴しまして、これからはまた町も、いろいろな面で調整をしながら、教育の問題を進めてまいりたいと、このように考えているところであります。

このたびはそういう面ではGIGAスクールということで進めさせていただいたわけでありましてけれども、子供たちも喜ぶし、また先生方も一生懸命取り組んでおられましたし、本当にありがたいなと思っていますところであります。

そういうものも学習しながら子供たちに指導していくと。やがて自信を持って仕事に取りかかれて、また有意義な人生を送れるということの基本のベースになればと、このように思っているところであります。いろんなご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、議事を閉じさせていただきます。皆様からいただきましたご意見、そしてまた鋭意検討いたしまして、今後の施策に反映させるよう、努力してまいりたいとこのように考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

向後総務課長 ありがとうございました。これで4番目の議事は終了となります。5番目のその他に移りまして、この際、その他ということで皆様から何かありましたらお願いしたいと思っております。

よろしいでしょうか。それでは、これで令和2年度の第1回東庄町総合教育会議を閉会とさせていただきます。皆さんお疲れさまでした。

(午後 2時58分 閉会)